

「滋賀地域交通計画」に基づく取組について

< 令和8年度 中間報告 >

SHIGA
SMART
ACCESS
2040s

[目次]

1. 滋賀地域交通計画の概要
2. 地域交通の維持・充実に向けた施策
3. 施策実施に必要な財源確保
4. 県民・企業等との対話



施策

・維持 ・充実
・利用促進 ・DX・GX

財源

成果共有



意見反映

対話

・県民
・企業
・市町
・交通事業者 等

Ⅰ. 「滋賀地域交通計画」の概要①

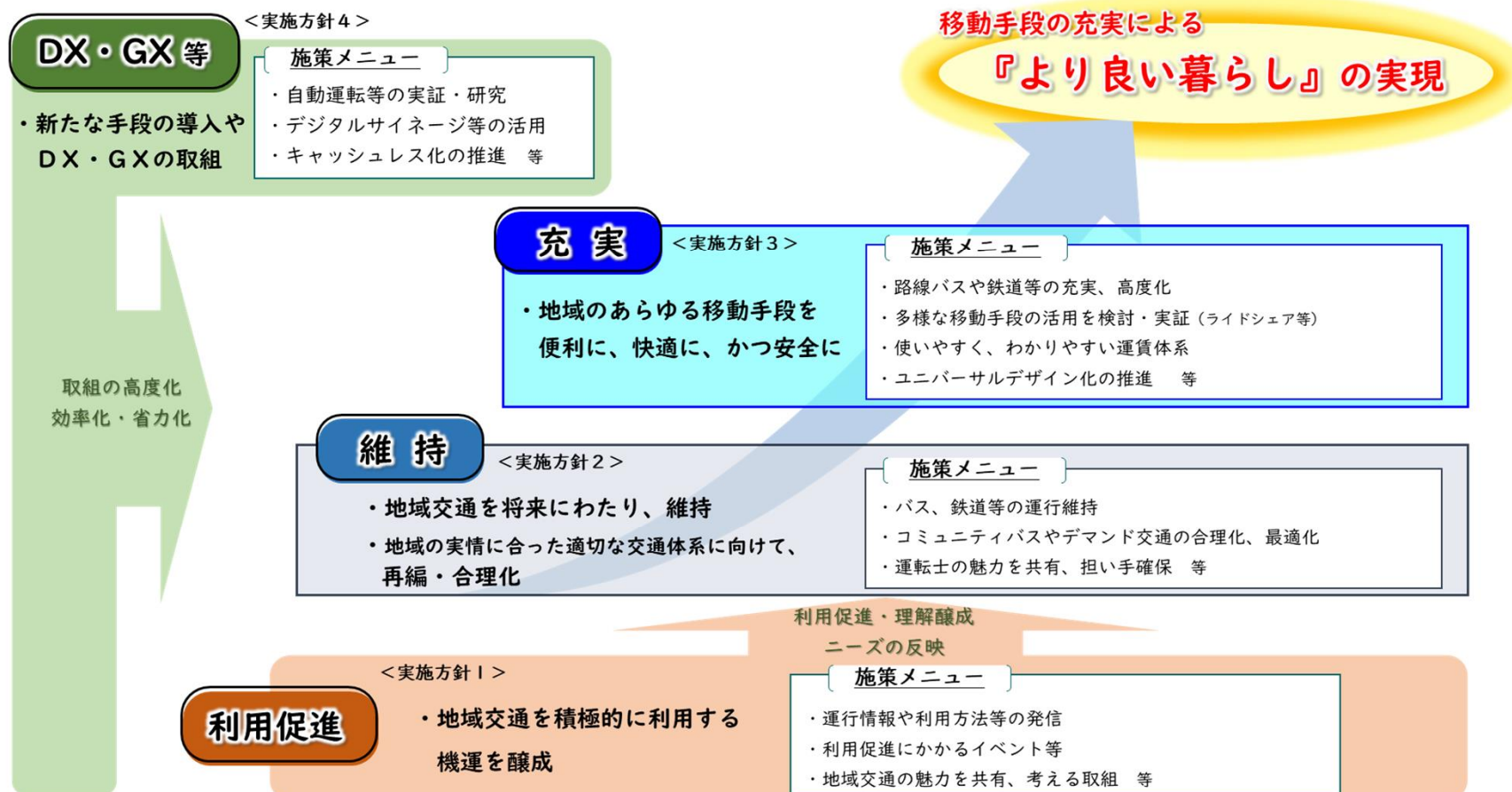
○「滋賀地域交通ビジョン（R6.3策定）」のアクションプランとして策定

○策定時期：令和8年（2026年）3月

○計画期間：令和8～12年度の5年間

○主要内容：地域交通の維持・充実に向けた実施方針や施策、財源のあり方 等

計画における施策体系

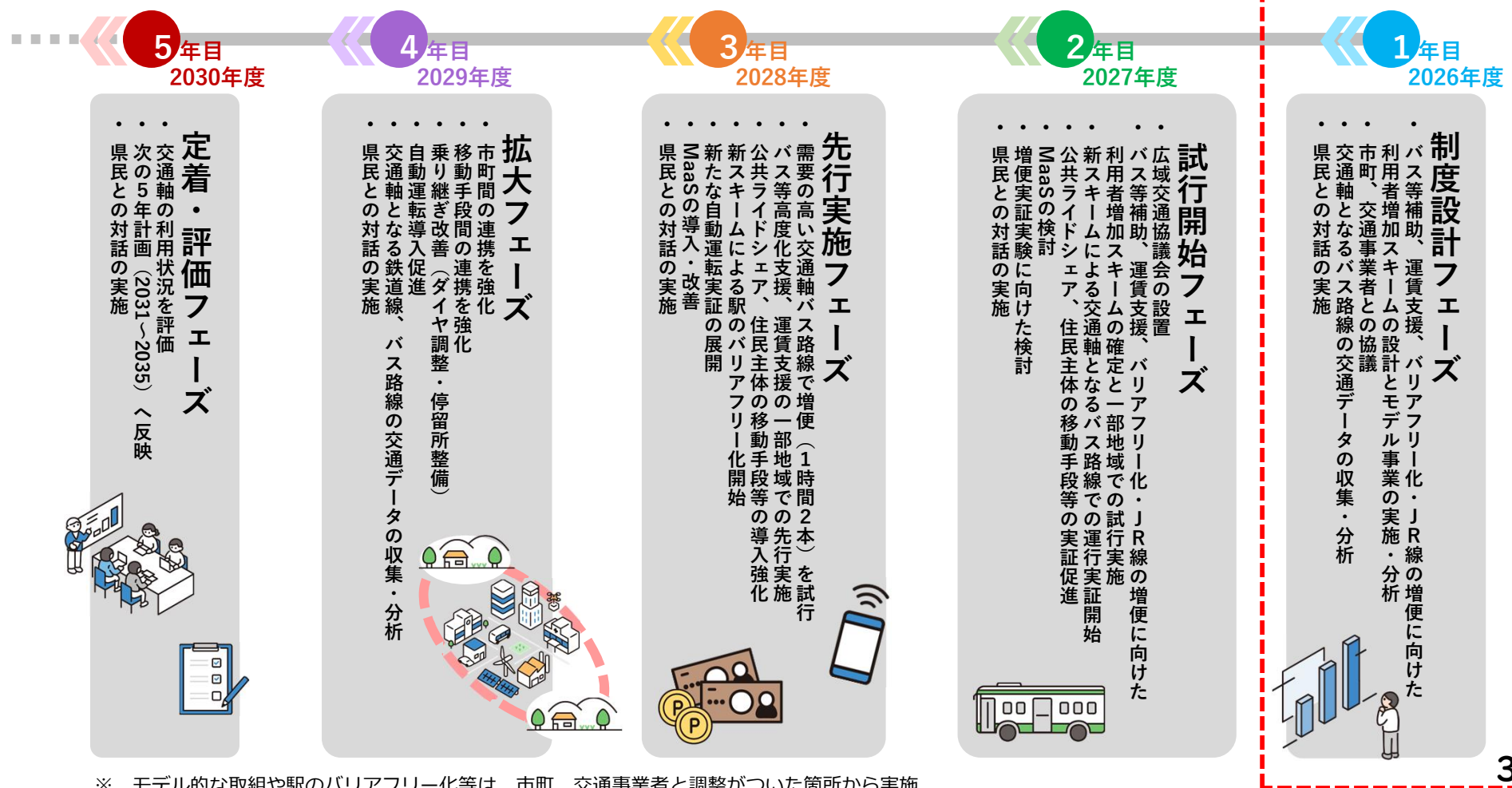


1. 「滋賀地域交通計画」の概要②

SHIGA
SMART
ACCESS
2040s

令和12年度（2030年度）に向けた5年間のロードマップ（充実にかかる施策）

○令和8年度は、計画初年度として、市町・交通事業者と連携した取組の試行実施と併せて、県民・企業等との対話を進め、今後の施策の具体化につなげていく。



2. 地域交通の維持・充実に向けた施策

○「地域交通」は、まちづくりや観光、教育、福祉等の様々な分野を支える重要な社会インフラ。

○市町や交通事業者とも連携しながら、「交通」を基盤としたまちづくり等に資する取組を推進。

まちづくり

沿線・広域連携まちづくり
びわこ文化公園都市の活性化 等

<取組例>

- ・びわこ文化公園都市エリア
横繋ぎバスの共同実証運行
- ・駅を中心としたまちづくり、
沿線自治体による広域連携まちづくり
- ・バスの充実(連節バス導入等)による
混雑・渋滞解消 等



※貴生川駅周辺整備事業 キラッタ・プロジェクト

観光

JRデスティネーションキャンペーン
周遊観光の促進、シガリズム、ビワイチ 等

<取組例>

- ・自動運転バス実証運行
- ・鉄道版ビワイチパスによる周遊促進
- ・二次交通の充実
(シェアモビリティ、EVレンタカー、バス、
タクシー等)
- ・IC決済・交通モード間の乗継向上等



※自動運転バス実証運行

教育・福祉・健康

学生の通学・進路選択
高齢者の通院・買い物のための移動 等

<取組例>

- ・通学定期券補助、学生向け運賃支援
- ・バス・デマンド交通の充実
- ・公共ライドシェア、ボランティア輸送等
の拡大
- ・ユニバーサルデザインタクシー(UD車両)の
導入支援 等



※バス・デマンド交通の充実

地域交通の維持・充実

※記載内容には、
県以外(市町や交通事業者等)の施策も含む

例Ⅰ：市町と連携した取組の推進（地域に合わせた交通網の構築）

施策例：路線バス・デマンド交通の充実・高度化モデル事業

○路線バス、デマンド交通において、滋賀地域交通計画に掲げる利用者のサービスレベル向上につながる取組の試行を支援する。（増便や路線拡充、運行時間の延長、ニーズへの対応等）

（Ⅰ）令和８年度の取組

○草津市、栗東市、野洲市、米原市、日野町、竜王町の６市町で、暮らしや観光ニーズ等を踏まえ、新たな取組をモデル的に推進。

○令和８年４月に交付決定、今年度内に各取組を実施（補助対象：市町、補助率：2/3）

<取組例>

野洲市

- ・駅と地域拠点間の路線バスの増便。
- ・路線バスのバス停留所付近に駐輪場を設置し、サイクル&バスライドを推進



米原市

- ・AIオンデマンド導入による予約の最適化、即時予約
- ・自宅停留所の導入（高齢者等）



日野町

- ・夕方時間帯の習い事の送迎ニーズやDCを見据えた観光需要に対応する公共ライドシェアの実証
- ・AIオンデマンド交通のエリア拡充



竜王町

- ・AIオンデマンド交通の土日への運行拡大実証



（Ⅱ）今後の取組

○各取組を他市町や地域に共有することで、好事例の横展開を図るとともに、県民等との対話を通じて、その成果を発信することで「移動手段の充実による『より良い暮らし』」のイメージを共有する。

○次年度以降の支援策について、県内各所での好事例の展開につながるよう、地域ニーズを踏まえて検討。 5

例2：交通事業者の取組等の推進（地域交通の維持、利便性の向上）

施策の概要

○利用者減少や運転士不足等により、交通事業者の経営努力のみで地域交通を維持することが難しい中、運転士確保を支援するとともに、交通事業者と連携し、利便性・快適性・安全性の向上に取り組む。

取組①：運転士確保

○運転士確保や生産性向上等の取組を支援

（補助対象：バス・デマンドタクシー・タクシー、補助率：1/2）

- ・ R 8 年 4 月～、交通事業者による運転士に向けた広報・発信の取組を実施



○県域で就職合同説明会やバス運転体験会を開催（9月26日開催）

取組②：利便性の向上

○バス事業のキャッシュレス化や多言語対応、ノンステップバスの導入等の取組を支援

（補助対象：バス事業者、補助率：1/2）

- ・ R 8 年 4 月～、バス事業者による多言語化による利便性向上

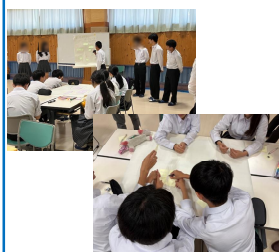


バス液晶運賃表の改修（多言語化対応）

取組③：利用体験の機会創出

【利用機会の創出】

○交通事業者等による子どものバスの利用促進企画や、「ガチャフェス（10/11）」等を開催。



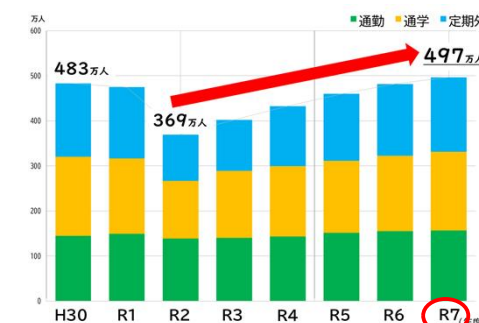
【未来のまちづくり交通教室】

○中学生を対象に「未来のまちづくり交通教室」を開始。

- ・ 7/10 東近江市立永源寺中学校で実施。



（参考）近江鉄道線の輸送人員実績



例3：県の取組（先進技術へのチャレンジ）

施策例：Shiga Smart Access自動運転チャレンジ事業

○バス等の運転士不足への対応等のため、令和7年度から「彦根市・彦根城エリア」にて、自動運転レベル4運行を目指した実証運行に取り組んでおり、今年度、更なる実証運行（ルート・期間の延長や技術の高度化等）に取り組む。

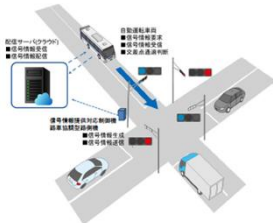
(1) 令和8年度 実証運行概要

運行ルート	彦根城・彦根駅ルート（1周約3.0km）
運行期間	令和8年10月12日から令和8年11月15日（30日間）
自動運転レベル	運転士が同乗するレベル2
技術面の取組	信号連携1箇所（旭町交差点）
運賃	無償
自動運転車両	定員：9名 速度：～18km 車両：Navya EV03
その他	・子ども若者乗車体験・デジタルスタンプラリー

路上駐車回避（車両機能向上）

信号協調システム

子ども若者乗車体験



(2) 令和7年度 実証運行結果

運行ルート	彦根駅ー彦根城前（往復1.5km）
一般運行期間	令和8年2月2日（月）～2月16日（月）（15日間）
利用者	1,819人（290便）
乗車率	69.7%（平均6.27人/1便）
自動走行割合	83.7%（17km/214km）

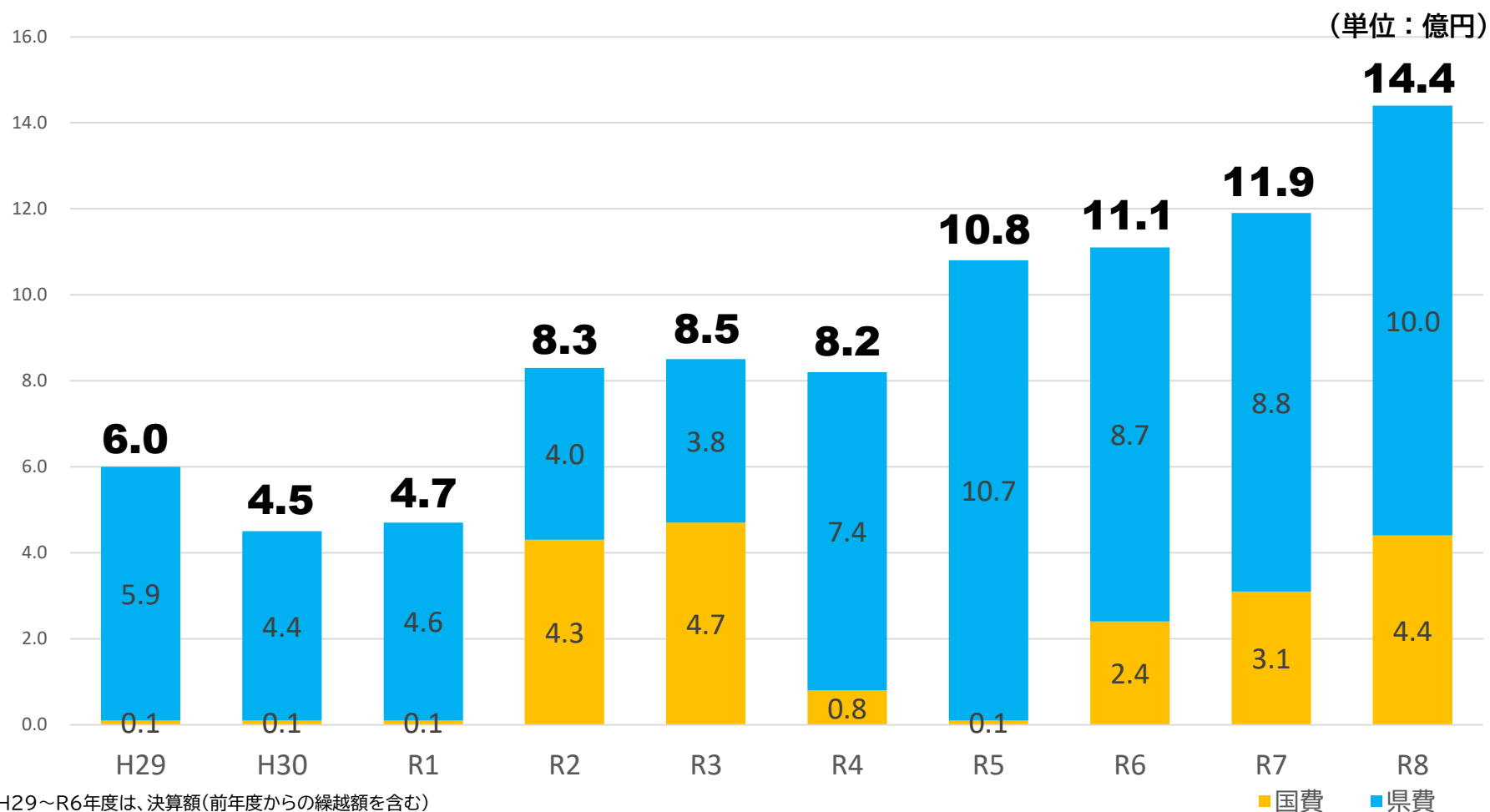


図：令和7年度 自動運転走行での課題（手動介入発生箇所）

3. 施策実施に必要な財源確保①

本県の地域交通関係経費の推移

○本県の地域交通関係経費は、厳しい財政状況の中、国費等も最大限活用し、近年、増額している状況。



※H29～R6年度は、決算額(前年度からの繰越額を含む)
※R7年度は2月補正後予算額、R8年度は当初予算額(前年度からの繰越額を含む)
※職員人件費は除く
※観光、道路、交通安全等の予算は含まない

3. 施策実施に必要な財源確保②

○施策実施に必要な財源について、まずは、交通事業者の収入増につながる利用促進や国費の積極的な獲得、不断の事業見直しなどに取り組みながら、限られた財源の中で必要な施策を計画的に実施。

○加えて、将来にわたり施策を安定的に実施していくため、新たな財源についても検討し、その選択肢の一つである新たな税については、予断を持たず、慎重かつ丁寧に検討を重ねていく。

	現在(これまで)の取組	今後の方向性
利用促進 利便性向上	・イベント開催等による <u>地域交通の積極的な利用に向けた機運の醸成、運賃の見直し</u> 等	・ <u>交通事業者の収入増に向けた取組や効率化等によるコスト縮減</u> に取り組む。
国費の獲得・ 国への提案	・社会資本整備総合交付金(R8:約2.4億円)等の活用 ・路線バスの共同運行実証等に <u>国費活用</u> (R8.4) ・ <u>国への提案・要望</u> (R8.5_春要望、R8.8_知事会要望 等) (参考) 直近の国の動き	・「 <u>交通空白の解消</u> 」に向けた <u>国の動き等も注視しながら、国費を積極的に活用</u> ・引き続き、国に対して、 <u>安定的な財源の確保と支援制度の充実を要望</u>
※地域交通法＝地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 ○R8.6_地域交通法が改正(R8.10_施行)され、 <u>交通空白解消に向けた取組</u> (地域輸送資源のフル活用等)が進められている ○R8.4_鉄道に関する有識者検討会の提言:「 <u>安定的な財源確保</u> 」「 <u>幅広い受益者から負担を収受する仕組み</u> 」等に言及		
事業見直し等	・毎年度の予算編成において、 <u>事業の必要性や効果を決算の結果も踏まえて評価し、予算に反映</u>	・左記に加え、計画に基づき、 <u>施策の実施効果や変化する社会情勢との適合性、財源確保の状況などを定期的にモニタリングし、検証・評価</u>
新たな財源 の検討	・ <u>新たな税の検討</u> (県民等との対話、税制審議会でのあり方検討、県議会への検討状況の報告等)	・ <u>新たな税の検討</u> (県民や企業等との対話、税制審議会でのあり方検討、県議会への検討状況の報告・議論等) ・その他方策の検討(寄附・協賛等)

4(1)タウンミーティング「SHIGAみらいトーク」①

(1)開催趣旨・状況

○きめ細かな対話を通じて、①暮らしやまちづくり、それらを支える地域交通に対する思いやニーズを伺うとともに、②移動手段の充実に向けた機運の醸成を図る。

○今年度、県内19市町において順次開催。(市町との共催)

①8/22_甲賀市、②8/29_竜王町、③9/19_高島市、④9/27_米原市、⑤10/18_湖南市で開催。

今後、⑥10/26_野洲市、⑦10/31_守山市、⑧11/21_近江八幡市、⑨11/30_長浜市で開催予定。※12月以降は調整中

(2)プログラム

○暮らしやまちの未来、それらを支える地域交通について
語り合うワークショップ形式で実施

○段階的に視点を広げるプログラム (自分→他者→まちづくり)



甲賀市



竜王町



米原市



高島市

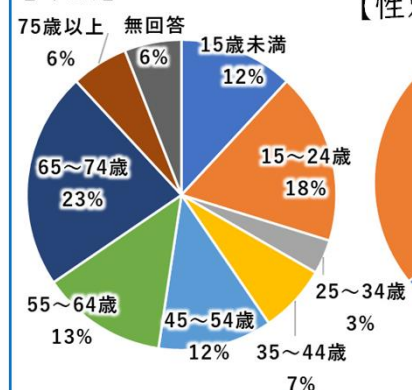
(3)参加者状況

開催市町名	日時	参加者数
①甲賀市	8/22(土) 9:30~11:30	18人
②竜王町	8/29(土) 14:00~16:00	20人
③高島市	9/19(土) 14:30~16:30	14人
④米原市	9/27(日) 10:00~12:00	15人
⑤湖南市	10/18(日) 13:00~15:00	17人

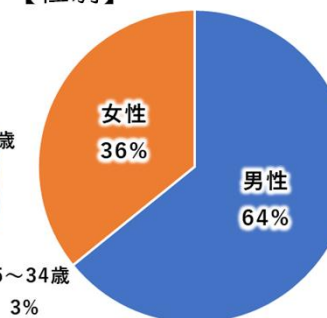
※参加対象：開催地の各市町に在住／在勤／在学の方
(⑤湖南市は、中学生・高校生・大学生限定)

※各定員：20名程度

【年齢】



【性別】



【職業・立場】

・高齢者
・子育て世代
・現役世代
・中高校生、大学生
・市・町議会議員
・自治会
・地元企業
・社会福祉協議会
・障害者支援団体
・ボランティア団体
・観光協会 他10

4(1)タウンミーティング「SHIGAみらいトーク」②

SHIGA
SMART
ACCESS
2040s

④開催結果：参加者からの主な意見等

※10/18の湖南市開催分は、結果整理中のため、未掲載

項目	①甲賀市	②竜王町	③高島市	④米原市
交通の特徴	・多彩な交通ネットワーク (鉄道、コバス、ライドシェア等)	・県内唯一鉄道駅のない町 ・チョイソコリゅうおう	・JR湖西線が交通の軸 ・バス等の二次交通	・新幹線、在来線が集まる ・乗合タクシーまいちゃん号
主な課題	・鉄道バスの便数が少ない ・親の送迎負担が大きい ・駅周辺で立ち寄る先が少ない	・チョイソコの利便性向上 (運行時間帯、予約時期等) ・路線バスの利便性向上 (駅までのアクセス等)	・JR湖西線の利便性向上や強風対策 ・駅内環境(トイレ劣化等) ・二次交通が不便	・駅からの二次交通 ・まいちゃん号乗り場までの移動負担

＜具体的な取組・アイデア(主なもの)＞ ※ 内の数値は、参加者からの意見の数

運行サービス 水準向上	・JR草津線の増便 (ワンマン運行化等) ・ライドシェアの拡大 35	・チョイソコの利便性向上 (時間帯、予約時期等) ・駅へのアクセス改善 26	・JR湖西線の増便 ・ライドシェアの活用 24	・JR線のダイヤ充実 ・まいちゃん号充実 (近隣市との連携) 24
利用しやすさ 向上	・キャッシュレス化 ・駅・駅周辺の魅力化 12	・運賃値下げ ・通勤定期への支援 ・免許返納者への支援 17	・JR湖西線の強風対策 ・駅トイレの洋式化 19	・JR東海・西日本のつなぎ ・まいちゃん号予約改善 ・運賃値下げ 9
担い手確保	・処遇改善(給与増額等) ・民間等ドライバー活用 ・子ども向け魅力発信 10	・一般ドライバーの活用 ・企業との連携 ・子どもの交通学習 4	・潜在的人材の発掘 ・企業との連携 6	・移住希望者とのマッチング 8
先進技術 への挑戦	・自動運転 (バス・タクシー) 4	・自動運転 (バス・タクシー) 7	・自動運転バス (マキノ駅～メタセコイア) 7	・AIオンデマンドの進化 ・AIやビッグデータの活用 6
住民啓発 ・機運醸成	・本数増加のための利用者 数増加 ・情報発信の強化 15	・チョイソコ登録方法周知や 利用レポート 4	・実際に乗ってみようキャン ペーン、スタンプラリー開催 ・観光列車、車外風景PR 10	・バス・デマンドの周知 ・利用する機会づくり 8
その他	・移動弱者への支援 4	・中心エリアへの道路整備 11	・歩いて暮らせるまちづくり 13	・駅周辺のにぎわい ・財源の確保が最優先 19
地域交通への 投資不要	—	—	・本当に困っているのか 1	—

4(1)タウンミーティング「SHIGAみらいトーク」③

SHIGA
SMART
ACCESS
2040s

参加者へのアンケート結果

※10/18の湖南市開催分は、結果整理中のため、含まない

<主なコメント>



普段、本数が少ないことばかり頭にあったが、色々なところに公共交通機関で行けるのはありがたいと感じた。

地域交通をたくさんの人が使うようにしていくことが重要。



市や県の具体的な取組を知れて参考になった。世代を超えた交流や意見交換ができてよかった。

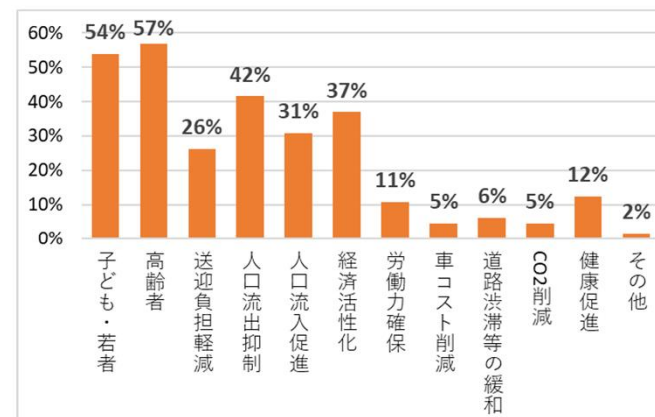
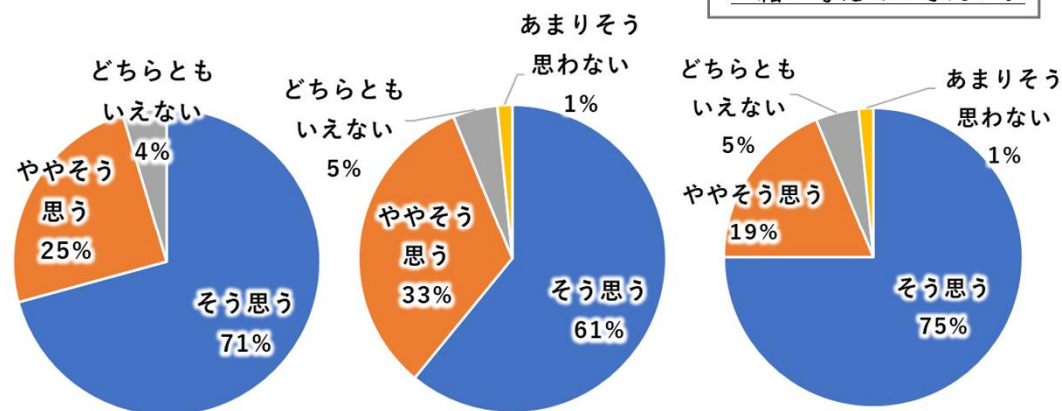
<アンケート結果>

「自分たちの地域の交通」
への理解が深まったか。

新たな発見があったか。

地域交通やまちづくりについて、今後も行政等と一緒に考えていきたいか

地域交通が持つ多面的な価値について
特に重要なもの（3つ選択）



今後とも各地域で対話を重ねながら、把握した地域の課題やニーズを市町や交通事業者とも共有し、地域の実情に応じた施策の具体化につなげるとともに、移動手段の充実に向けた機運醸成を図る。

4(2)市町との対話

①地域交通やまちづくり等に関する各市町の思いや課題について意見交換、および②タウンミーティング開催にかかる協力依頼を行うため、令和8年5～7月にかけて、県内19市町の首長等を訪問。

※県訪問者：交通まちづくり部 部長等

主なご意見

テーマ	主なご意見
交通 まちづくり	・ JR線の運行本数やダイヤの制約が、<u>通学や若者の定住に影響</u>している。 ・ 運転士不足等の状況を踏まえ、<u>バス路線を再編し、利便性向上を図る</u>。 ・ 交通の維持だけでなく、<u>新たな取組・システムが必要</u>（ライドシェア等）。 ・ <u>自動運転の技術が急速に進化</u>しており、交通のあり方が変わる。最新の情報を提供してほしい。 ・ <u>まちづくりと交通の連携は重要</u>。施設を集約しても利用できる移動環境が必要。
タウン ミーティング	・ <u>市町の構想の説明や住民の意見聴取機会</u>として活用したい。 ・ <u>市町が主催するタウンミーティングに乗っていただく形でもよい</u>。 ・ 理念ではなく、<u>具体的な取組や成果を示していく</u>ことが必要。 ・ <u>個別要望の場になることを懸念</u>。
財源の確保 (新たな税等)	・ <u>税の使途や市町配分、具体的な取組等</u>を示して議論することが必要。 ・ 税ありきではなく、<u>まずは、他の財源確保策を</u>考えてほしい。 ・ （税制度を導入するのであれば、）<u>交通を維持するための財源としても活用できるとよい</u>。

4(3) 企業との対話①

- 人手不足や働き方の多様化が進む中、従業員の通勤環境等の改善は、企業活動を支える重要な要素。
- そのため、企業との対話（アンケート、企業や経済団体との意見交換等）により、従業員の通勤環境の状況や課題・ニーズ等を把握し、効果の可視化を図るとともに、今後の施策の具体化等に活用する。

1) 企業アンケート

1) 実施概要 ○実施期間： 令和8年7月17日（金）～8月7日（金）

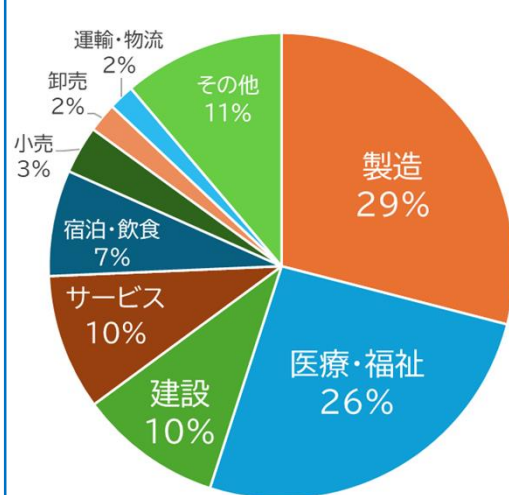
○実施方式： Webアンケート（企業向けメルマガや経済団体から周知）

○対象企業： 滋賀県内に事業所を有する事業者・団体（業種や規模等は不問）

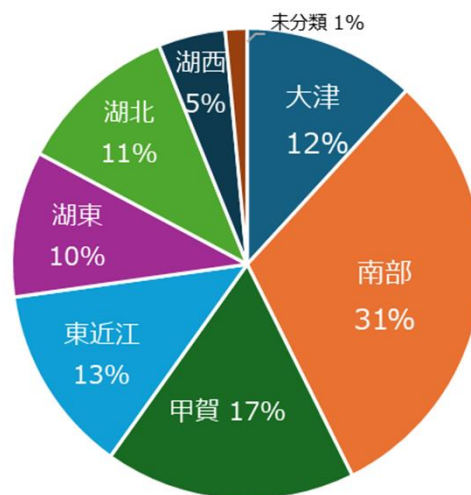
<回答数>

389件

2) 回答企業の属性



<業種別> N=389



<所在地別> N=389

アンケート内容

「従業員の通勤環境について」

- ・主な通勤手段の割合
- ・通勤上の課題、人材確保への影響
- ・公共交通の維持・充実の必要性
- ・期待する取組
- ・公共交通の充実による効果 など

※「利用者・顧客・来訪者の移動環境」についても上記同様に設問

4(3) 企業との対話②

3) アンケート結果のポイント（従業員の通勤環境）

- 公共交通については、運行本数の少なさや通勤時間、最寄り駅・バス停までの距離などの利便性に課題があり、全体の38%の事業者が、利便性の低さが人材確保（応募数）に影響していると回答。

※特に「製造業」では、その割合が45%となるなど、人材確保の面からも通勤環境の改善が課題。

→ 図1

- 自家用車通勤の割合が高い企業では、現状の通勤実態等から、地域交通に対するニーズが低い企業もあり。

→ 図2

一方、渋滞や高齢従業員の運転不安等の課題もあり、車通勤中心の企業でも公共交通の維持・充実へのニーズが見られる。

- 公共交通の充実による効果として、通勤利便性の向上や人材確保・採用力向上、交通事故リスク低減などが期待されており、通勤環境の改善だけでなく、企業活動を支える面での効果も期待。

→ 図3

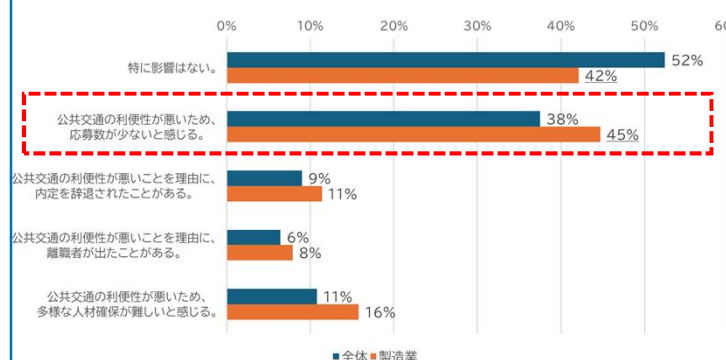


図1 公共交通通勤の課題が人材確保へ及ぼす影響 (全体/製造業)

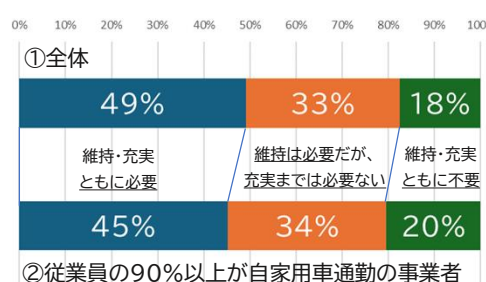


図2 地域交通の維持・充実の必要性 (①全体/②自家用車通勤の割合が高い事業者)

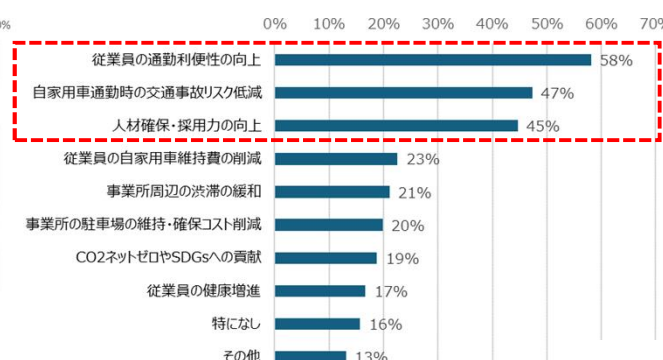
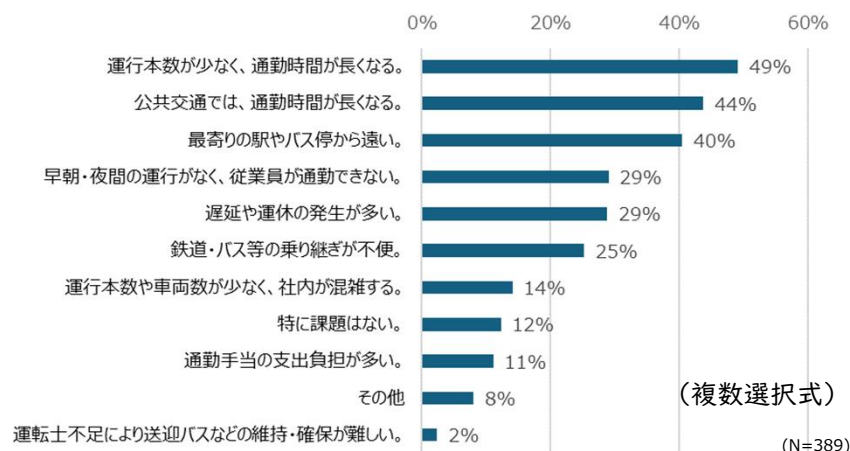


図3 地域交通の充実による期待される効果

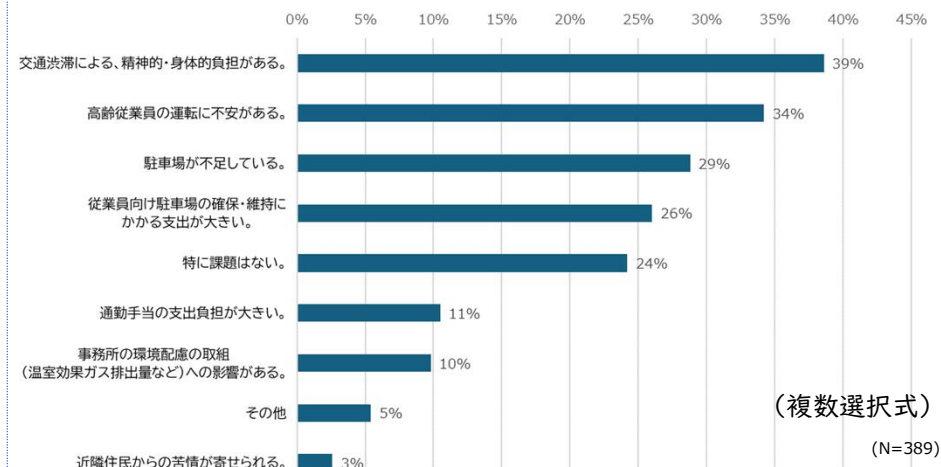
4(3) 企業との対話③

(参考) アンケート結果 [詳細] (従業員の通勤環境)

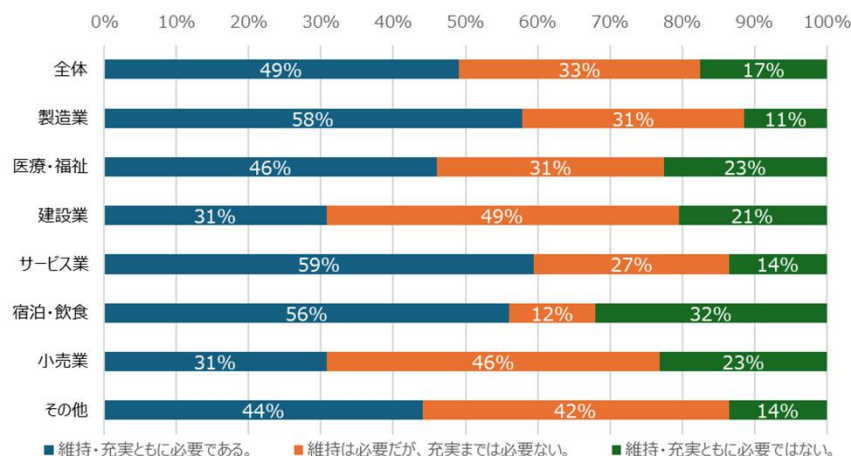
Q: 公共交通を利用した通勤の課題



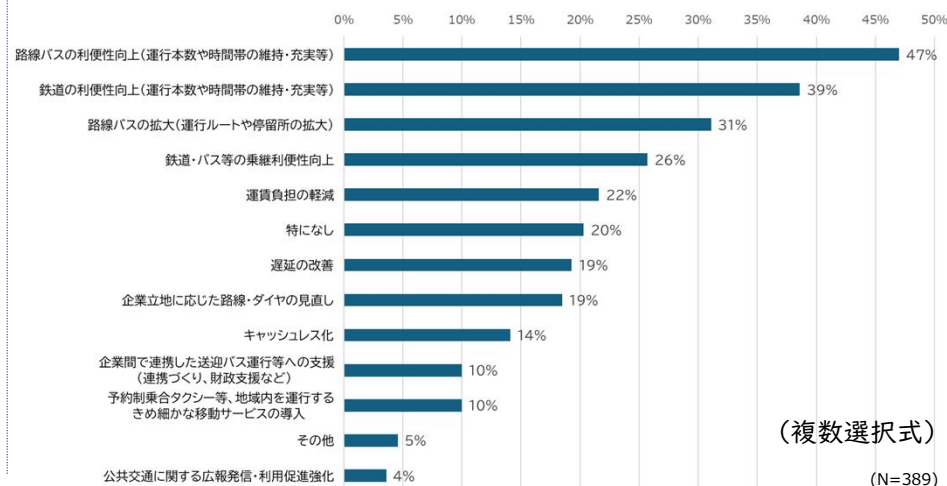
Q: 自家用車を利用した通勤の課題



Q: 通勤環境の改善に向けた 公共交通の維持・充実の必要性



Q: 県や市町、交通事業者に期待する取組



今後、地域別・業種別の特徴等をさらに分析し、企業との意見交換や施策の具体化に活用。

4(3) 企業との対話④

2) 企業との意見交換（企業訪問）

訪問実績（10月時点）
湖北・湖東・東近江エリアの製造業14社

1) 実施概要 ○対象企業：滋賀県内に事業所を有する事業者・団体

○実施時期：令和8年8月～

○実施方式：各企業を訪問し、担当者等から対面で意見交換 →

<意見交換内容>

○従業員の通勤実態・課題

○地域交通に対するニーズ

○地域交通の充実による企業活動への効果 等

2) 主な意見等

①現状・課題

- ・ 自家用車通勤が大半を占める企業が多く、交代勤務等では、公共交通を利用しにくい状況。（出社時間に合っていない等）
- ・ 公共交通で通勤しにくいことが、採用対象者の限定や就職辞退など、人材確保に影響。
- ・ 自家用車通勤の課題は、渋滞・事故リスク・駐車場不足。
- ・ 駅からシャトルバスを運行。京都方面からの人材確保に寄与。

③地域交通の充実による効果

- ・ 通勤可能な地域や対象者が広がり、若者をはじめとする人材の確保につながることを期待。
- ・ 従業員の通勤の利便性向上 など。

②ニーズ

- ・ 通勤で利用しやすい運行本数やダイヤ、乗継ぎ等のサービス改善や現行サービスの維持。
- ・ 公共交通情報のわかりやすい提供。
- ・ 一方、現状の通勤実態等から、地域交通の充実に対するニーズが低い企業もあり。

④その他

- ・ 将来的に免許を持たない若者が増えることを懸念。駅からの送迎バスなどの取組も必要との意見あり。
- ・ ネーミングライツの活用など、企業と地域交通が連携する可能性を示す意見もあり。

今後、対象地域を広げるとともに、製造業以外の業種にも対象を拡大し、意見交換を実施予定

(参考) 令和8年度 県政世論調査 [速報値]

調査時期：令和8年7月
公表時期：令和8年9月
(速報値)

SHIGA
SMART
ACCESS
2040s

主な結果

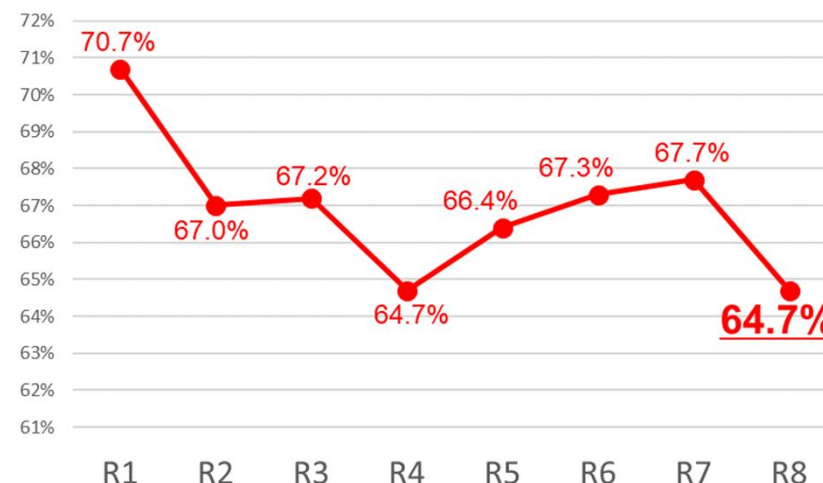
不満度 16年連続 第1位

< R8年度 >
64.7%
(昨年度：67.7%)

< 過去からの推移 (不満度) >

◆不満度の高い分野(「感じない」と「どちらかといえば感じない」を答えた比率)

順位	項目	R8 比率	R7 比率[順位]
1	鉄道やバスなどの公共交通が整っていると感じますか。 ※不満度 16年連続 1位	64.7%	67.7%[1]
2	地球温暖化などへの対応が進んでいると感じますか。	57.9%	58.0%[2]
3	災害に対する備えが進んでいると感じますか。	49.0%	52.1%[3]
4	滋賀県の魅力が発信されていると感じますか。	48.1%	46.7%[5]
5	道路などの社会インフラが整っていると感じますか。	46.3%	44.6%[7]



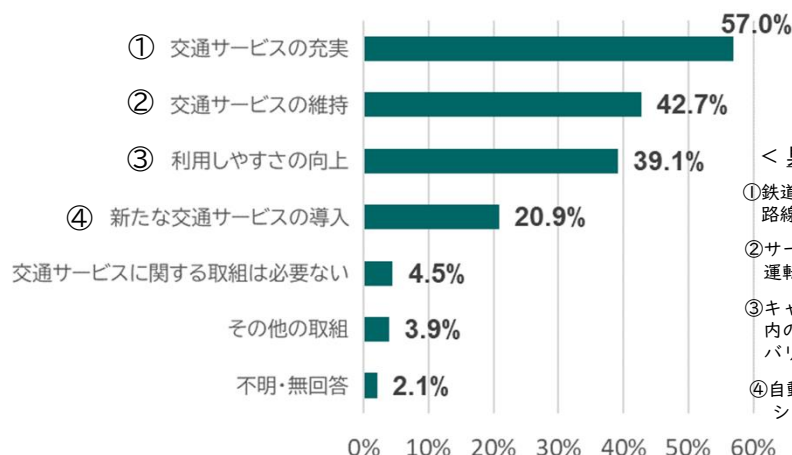
力を入れてほしい施策 第2位

(公共交通の活性化)

< R8年度 >
38.0%
(昨年度：35.4%)

公共交通に関する取組への期待

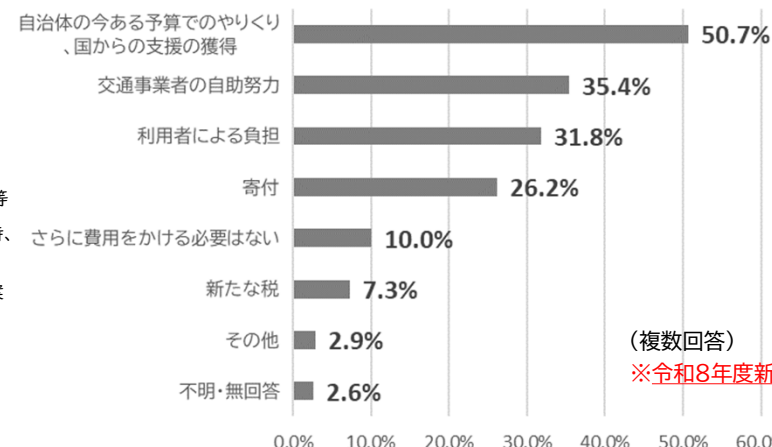
(複数回答)
※令和8年度新規項目



< 具体的な取組例 >

- ① 鉄道やバスなどの増便、路線拡充、運行時間延長 等
- ② サービスレベルの現状維持、運転士確保 等
- ③ キャッシュレス化、乗換案内の充実、均一運賃、バリアフリー化 等
- ④ 自動運転、ライドシェア、シェアサイクル 等

公共交通の維持・充実のための財源確保



(複数回答)
※令和8年度新規項目